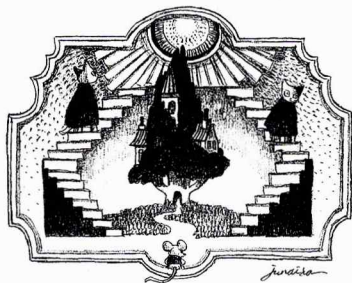


朝日 歌壇 俳壇



〈日曜日のプローチ 16〉 junaida

大串 章選

宇宙へのパスポート持ちハンモック
(本巣市) 清水 宏晏
草笛を卒寿の息で奏でけり
(広島市) 大林 實
炎天下十年ぶりの校歌かな
(尾張旭市) 石川 盛久
旅先の茅の輪くぐるも縁かな
(横浜市) 高野ゆり子
人生の峠幾度ほととぎす
(伊万里市) 萩原 豊彦
毎日が誰かの忌日生ビール
(浜松市) 新美 幸二
炎天やいのちひとつを持て余す
(羽咋市) 北野みや子
大夕立去りて近づく赤城山
(前橋市) 萩原 葉月
戦死とは餓死と知りたる敗戦忌
(つくば市) 小林 浦波
臥す母に祭囃子の葉かな
(匝瑳市) 椎名 貴寿

【評】第1句。ハンモックに揺れながら大空へ思いを馳せる。「宇宙へのパスポート持ち」が言い得て妙。第2句。90歳の翁が草笛を吹いている。やさしい音色が胸にひびく。第3句。十年ぶりに同窓会でも開催されたのか。「校歌」が懐かしい。

高山れおな選

螢火のなかりき過ぎるほたるあり
(東京都足立区) 望月 清彦
夕焼を逆走すれば逢えるのか
(東京都新宿区) 各務 雅憲
夕焼けをつかまへにゆく人の群れ
(羽曳野市) 玉田 一成
セミシグシなる生き物に飲み込まる
(東村山市) 内海 亨
でで虫の周りの雨のかがやけり
(八代市) 山下しげ人
黒猫の茄子の如くに眠りをり
(京都市) 小島 一男
老婆の秘密基地なり冷蔵庫
(東京都世田谷区) 岸田 季生
マンゴーを食らい見つめる風かな
(ふじみ野市) 麻生結希子
朝曇波音たてて竹箒
(八王子市) 長尾 博
俳壇に知る君の現在遠花火
(さいたま市) 伊達 裕子

【評】望月さん。蛇笏「流灯や一つにはかにさかのぼる」の螢火版。各務さん。玉田さんは、それぞれ情念的に夕焼けの荘厳に迫る。内海さん。〈蟬時雨は命そのものを浴びているみたいで、恐ろしい〉と若いエッセイスト(小原晩)の一文に。

小林 貴子選

干からびて死にたくはなし炎天下
(志木市) 谷村 康志
もう一度父に着せたまきアロハシャツ
(村上市) 鈴木 正芳
箱庭にアダム置くと躊躇へり
(八王子市) 徳永 松雄
白鷺の水を汚さぬ忍び足
(太田市) 沢沢 今美
久々に夫に恋してビール注ぐ
(神戸市) 岩水ひとみ
一年に一度も逢へる星の恋
(春日市) 宮原 孝一
空鍋を騒がせてガゼの裸の子
(大阪市) 平谷 茹美
☆短夜にいくつも読めてO・ヘンリー
(甲府市) 村田 一広
水貝の美味さを知りぬ淡路島
(船橋市) 佐々木美彌子
河骨の金鈴開く水浅み
(神奈川県松田町) 山本けんせい

【評】一句目、ミミズが道で干からびているのを見るが、人間も熱中症にご注意を。二句目の父は生前、アロハシャツが良く似合っていたのであろう。三句目、人間を生み出すか否か、神も迷ったか。十句目は水草のコウホネ。花が黄色で綺麗。

長谷川 權選

余生とは虹の百句を詠む月日
(沼島市) 大関 崇央
炎天へただ一枚の乗車券
(長崎市) 下道 信雄
世にかほど小さき蠅を潰しけり
(敦賀市) 中井 一雄
夏座敷足の裏まで愉快なり
(厚木市) 北村 純一
向日葵や戦やぶれて八十年
(いわき市) 佐藤 朱夏
労働に向かぬ性格サングラス
(栃木県壬生町) あらみひとし
☆短夜にいくつも読めてO・ヘンリー
(甲府市) 村田 一広
誇らしや越後長岡青田波
(長岡市) 柳村 光寛
扇風機店主のごとく古びけり
(越谷市) 新井高四郎
かて飯はまつばらめん敗戦忌
(仙北市) 安部 哲男

【評】一席。悠々たる気分。密かに楽しむ気分。二席。改札を出るところ。「ただ一枚」とは深い。三席。誤ってなら悔い、わざとなら残酷。いずれにしても横暴な人間。十句目。米に雑穀を混ぜたご飯。「まつばら」ともいっていいられない。

俳句時評 若き俳人の模索

岸本 尚毅

〈橋に鳩マフラー貸してそれつきり〉
〈売れ残る金魚のやうに夜を遊ぶ〉
〈桜や遊具の上のおとなたち〉
〈卒業の頃からずと工事の駅〉
〈僕ら残像白シャツを脱ぐ脱がす〉
〈山焼く日つねの遠目のぬくみ〉
は、大塚凱「或」(ふらんす堂)から引いた。

返って来ないマフラー。売れ残った金魚。夜の遊具に「おとなたち」。卒業して何年経っても工事の駅。「残像」となった「僕ら」。遠くを見るぬいぐるみの眼。過ぎゆく青春を慈しむように詠む大塚は一九九五年生。

このような大塚の句を叙情で括るのは早計だろう。踏絵を通じて人間性を穿った「踏めは絵の見えなくなると唆す」、人の意識それ自体を描出した「眼は次の草を見てゐて草むしり」、静謐な空無感を表出した「おもかげのなくて水澄むベ」など、俳句表現の可能性を探り続ける大塚は、自身の青春の叙情さえも俳句の契機として意識的に対象化して

「朝日俳壇の選者とともに」参加者募集 朝日カルチャーセンター新宿教室主催で、4選者との交流会。9月23日午後1時30分から、東京都新宿区西新宿2の6の1 新宿住友ビル10階で。作品を募り(未発表の2句、9月2日締め切り)、4選者が公開選句で特選と入選を決める。参加費は5665円。オンラインでも同額で参加できる。申し込みは、教室のHPから。問い合わせも教室(電話03・3344・1941)へ。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のほかき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます。ネットからの投稿は、投稿後、1週間程度で結果が返ります。